

NEW ダイコンドラ シルバーフォールズ

- シルバーリーフ、シルバーステムの美しい観葉種。円形のユニークな特徴ある葉(長さ 1 から 2cm、幅 2 から 3cm)を有する
- とても勢いのある株をもち、下垂の草姿が特徴的な品種。通常、つる状のSTEMが 1.2m くらいまで達しますが、適した条件の下では 1.8m ほどまで達することもある
- コンテナへの寄せ植えや、単独でハンギングに植えても抜群のパフォーマンスが期待できる品種
- また、5 から 7cm の丈で横に這うのでグランドカバーにも利用可能。水を含みやすい土地では、STEMどうしが絡まりやすいので注意が必要
- よく分枝するピンチは不要
- 温度が高い水切れしやすい土地でもよく育ち、一度しおれてもかん水すればすぐ立ち直る
- 標準発芽率 85%の種子を提供

学名: *D. argentea*

種子粒数の目安: 214 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。培地の pH は 5.5 から 6.3、EC は 0.75mmhos/cm(1:2)を維持する

播種

粗めのバーミキュライト等で覆土する

温度

発芽適温:	22 から 24°C
子葉展開後:	18 から 22°C
本葉展開後:	18 から 21°C
本葉以後:	16 から 18°C

光条件(照度)

発芽時: 不要

発芽後: 10,000 から 30,000 ルクス(1,000 から 2,500 f.c.)

育苗期: 温度条件が適正であれば、54,000 ルクス(5,000f.c.)まで可能

湿度

子葉展開までは相対湿度を 95%に維持する

培地の水分

幼根が現れるまでは培地の水分レベルを高く維持し、幼根が張り出すにしたがって徐々に下げる。培地を乾燥気味に維持した方がプラグの生育は早い。その際に、苗を枯らせないように注意する

肥料

幼根が現れてから 15-0-15 の肥料を 50 から 75ppm(N)の濃度で与え、子葉展開後は 100 から 150 ppm(N)まで上げていく

矮化处理剤(PGR)

鉢上げの 1 週間前に B ナインを 2,500ppm 散布すると、後に分枝がよく促される

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、新しく衛生的な培地を用いる。培地の pH は 5.5 から 6.5、初期の養分は中庸とする

温度

昼間: 18 から 24°C

夜間: 16 から 18°C

光条件(照度)

照度が高いほど葉色が強い銀葉となり、節間も詰まる

かん水

シルバーフォールズは、基本的に高温乾燥の条件を最も好む植物である。次のかん水までには十分培地が乾くように管理する

肥料

週に 1 回程度、各栄養素を含んだ汎用タイプの肥料を 200ppm(N)与える

矮化处理剤 (PGR)

ポットでバランスよく仕立てるには、鉢上げの 1 週後に B ナインを 5,000ppm、サイコセルを 1,000ppm の混合散布をすると、分枝の促進や節間伸張の抑制、またSTEMどうしの繫累防止にも効果がある。また、葉色の発色(銀色)強化にも効果がある

ピンチ

ピンチは不要

平均的な生産期間

播種から鉢上げ(288 穴トレイ): 6 から 7 週

鉢上げから出荷 (10cm ポット): 7 から 8 週

ポットサイズ	定植本数	移植から 出荷までの週数
10 から 11cm ポット	1	6 から 7 週間
15 から 18cm ポット	3	7 から 8 週間
30cm 程度のコンテナ またはハンギングバスケット	3	9 から 9 週間
	4	7 から 8 週間
	5	6 から 7 週間

※ 72 穴トレイなどで育苗する場合、播種から移植までの期間は 7 から 8 週となるが、鉢上げ後の生産期間をだいたい 2 週短縮することが可能である

病例等

虫害: とくに重大な事例は報告されていない

病気: とくに重大な事例は報告されていない

ホームガーデナー向けのアドバイス

定植および配置においては日当たりの良い場所、あるいは適宜日陰になる場所を選びましょう。シルバーフォールズは、ミックスコンテナやハンギングバスケットのカスケード(頂部から下垂を形成)プラントとして用いることが可能です。花壇定植に際しては水はけのよい土壌を選びましょう。傾斜のある空間やロックウォールの壁面などで高い機能を発揮します

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。